

2018年度「東アジア社会福祉フォーラム」報告

「東アジア社会福祉フォーラム」(四川省成都市 西華大学)に参加して
(主催『中国社会学会社会福祉研究専門委員会』 日時:2018年10月12~14日)

山梨県立大学 川池 智子 聖徳大学 川池 秀明

10月は忙しそう、四川は遠そうと、はじめは躊躇したけれども、やっぱり行ってみたいと思ったのは、先の韓国社会福祉学会で、海外での研究発表の醍醐味を知ったからである。ストレートな批評と深い討論は刺激的であった。今回は、「東アジア」の国々の社会福祉研究者が一堂に会するというめったにないチャンスであるということにも魅かれた。

大会テーマは「発展を分かち合う理念の下における社会福祉制度のイノベーション」、大会全体を概観すると、やはり高齢化における社会福祉・社会保障改革への関心が高かった。概要は周知のこととはいえ、経済格差の中の社会問題(中国)、家族の機能の低下(韓国)、外国人介護者の状況(台湾)等の発表から、リアルな最新研究動向を知るのみならず、各国が直面する深刻な共通課題に、様々な違いを超えて知恵を寄せ合うことのできる可能性をあらためて確認した。東アジアの地域性や文化性等を通して、課題に向き合うための共通項を見出したいと考えるようにもなった。

私たちの発表は、テーマは「社会福祉専門職の職業的アイデンティティ形成に関する大学教育の課題」、資格を横断する“内発的”職業的アイデンティティを教育で培う意義を看護教育と比較し論じるものであった。イノベーションのためには教育・人材も重要だから大会趣旨に沿っていると考えていたが、プログラムを見て“場違い”ではないかと不安になった。ところが各国の方々の関心は高かった。職業的アイデンティティと「ケアの倫理」に関する所論にも共感を得た。中国の研究者の「日本は中国の未来です。」という言葉には、高齢化や社会福祉の教育・実践・研究において先を行く日本と連携したいという熱意が感じられた。このような交流・発表ができたのは、学術的通訳が堪能な現地、西南交通大学の教員のおかげである。山梨県へ派遣された経験のある彼女の協力で同大学の研究院との繋がりもできた。数十年來の自治体間友好関係に助けられた。

さて、今回、最も印象に残った事の一つは「若者たち」の姿であった。西華大学の学生たちは懸命に運営サポートをしてくれた。大会で発表した日本の大学院留学生とは議論ができた。他省の大学院生はメールで質問をくれた。グローバルな視野で中国の社会福祉を担うであろう若者たちの眼差しに、歴史の重みを跳ね返す「東アジアの社会福祉の未来」をみた。

ともあれ、広大な空の下、猛スピードで駆け抜ける車両の列とそこを横切るリヤカーにダイナミックで多様性のある中国を体感し、最終日には赤ちゃんパンダたちに癒されたこと、四川省はわりと近く、風光明媚な地であったことも付しておきたい。